



年頭のご挨拶

浜田昭雄 (自動車技術会 会長) |

関西支部長就任にあたって

金井誠太 (自動車技術会 関西支部長) ||

技術の窓 協創による技術革新

2

福永 泰 (日立オートモティブシステムズ)

座談会 これからのエンジン技術の進展

4

大聖泰弘 (早稲田大学大学院) 古野志健男 (トヨタ自動車) 三部敏宏 (本田技術研究所)
矢島淳一 (日産自動車) 辻本主助 (経済産業省) 後藤雄一 (交通安全環境研究所) 島崎直基 (いすゞ中央研究所)

海外モーターショー見聞記 2010年に見えてきた各種新技術

12

近田 茂 (モータージャーナリスト)

特集 自動車設計を支えるシミュレーション技術

総括展望

自動車におけるスーパーコンピュータの歴史と今後の動向 ——— 坪倉 誠 (北海道大学大学院) 18

ガソリンエンジン設計を支えるシミュレーション技術 ——— 島崎勇一・葭原泰司 (トヨタ自動車) 25
鶴島理史 (日産自動車) 高岸 広 (本田技術研究所)
中間健二郎 (スズキ) 田中 大 (三菱自動車工業) 横畑英明 (マツダ)

ディーゼルエンジン開発におけるシミュレーション技術 ——— 石山拓二 (京都大学) 33
山崎雅和 (本田技術研究所) 内田 登 (日野自動車) 稲垣和久 (豊田中央研究所)

ドライブトレイン設計を支えるシミュレーション技術 ——— 鎌田慎志 (いすゞ自動車) 40
森田賢二・田中和宏・児玉真吾 (マツダ)
齋藤俊博 (本田技術研究所) 額田高德 (トヨタ自動車) 小川純一 (愛知機械工業)
矢部康志・寺田幹夫 (ジャスコ)

車両運動性能設計を支えるシミュレーション技術 ——— 野口博史・宮川 哲・影山雄介 (日産自動車) 47

アクティブセーフティを支えるシミュレーション技術 ——— 村野隆彦・阿賀正己・米川 隆 53
田中 信 (トヨタ自動車)

自動車設計を支える衝突安全シミュレーション技術 ——— 横山敦士 (京都工芸繊維大学) 59
江頭裕二 (マツダ) 水野良造 (スズキ)

振動・騒音設計を支えるシミュレーション技術 ——— 波頭伸哉・島田 博 (日産自動車) 66

製造・加工技術を支えるシミュレーション技術 ——— 中村元志・林 富雄 73
水谷政博 (トヨタ自動車)

エレクトロニクス設計を支えるシミュレーション技術 ——— 山口 亨 (首都大学東京) 79
嶋田 敏 (本田技術研究所) 鱗原晴彦 (U' eyes Design) 有馬仁志 (dSPACE Japan)

構造形成を支えるシミュレーション技術 ——— 宮地岳彦 (JSOL) 85

CFD技術の現状と今後の動向 ——— 浅野秀夫 (デンソー) 伊藤裕一 (木更津工業高等専門学校) 90
大島伸行 (北海道大学大学院) 小野謙二 (理化学研究所)
鬼頭幸三 (鬼頭幸三技術事務所) 郡 逸平 (東京都市大学) 小山隆太郎 (日産自動車)
嶋田喜芳 (ヤマハ発動機) 堀之内成明 (豊田中央研究所) 森吉泰生 (千葉大学大学院)

タイヤ設計を支えるシミュレーション技術 ——— 大沢靖雄 (ブリヂストン) 97

グレア光幕の加齢変化を考慮した運転 青木義郎 (交通安全環境研究所) 103
視覚情報のコンピュータグラフィックス

自動車ボデーの電着塗装の膜厚分布解析 ——— 小原勝彦 (上村工業) 崎田賢治・林 慶一 (大気社) 107



匠の技

高技能が支える自動車用ボデー金型

111

満永輝昭 (富士テクニカ)

超の世界

超臨界CO₂ガスタービン発電システム

112

加藤恭義 (MCX研究所)

なるほどのコーナー スポットライト

充電機能付き立体駐車場「plug-in リフトパーク」の開発
—次世代環境配慮型立体駐車場—

114

税所正昭・野田整一・藤川博康 (三菱重工業パーキング)

ITS 標準化委員会

活動レポート

2010年 ISO/TC204秋のチェジュ総会の報告

116

赤津洋介 (日産自動車)・中山雅文 (自動車技術会)

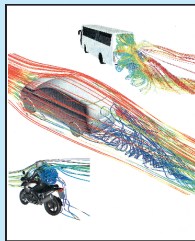
技術会通信

- ・会 員 118
- ・会議予定 119
- ・参加者募集 122
- ・第3回理事会報告 128
- ・第4回(臨時)理事会報告 129
- ・東北支部「市民講座」報告 130
- ・霞が関便り 131

表紙のコメント

モチーフは、車の後方にできる気流を空力シミュレーションで視覚化したもの。視覚化された気流は、カラフルで、リズムカルで、想像力を駆り立てる。

宇都宮 智(マツダ)



次号：自動車技術 vol.65 2011.02

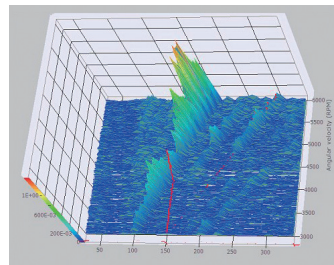
特集 ITSテレマティクスサービス

ITSテレマティクスを利用した各種情報サービスや、それらを支える技術を紹介

乞うご期待!!

技術で飛翔[東陽テクニカ]

FFTアナライザ 技術セミナーのご案内



最新のFFTアナライザソフトウェアを操作しながら振動・騒音計測の基礎知識を習得できます。本セミナーは当社のFFTアナライザのユーザの方々と同製品のご購入を検討いただいている方々を対象として開催していますが、下記日程のセミナーについては、ご参加資格を特に設けずに実施いたします。本セミナーは参加費用は必要ありませんので、ぜひこの機会にご参加ください

2月17日(木) 東京

3月17日(木) 愛知

4月7日(木) 東京

ご参加を希望される方は、下記URLよりお申し込みをお願いします。セミナー内容や開催場所、製品紹介などが掲載されておりますので併せてご参照ください。

<http://www.toyo.co.jp/car>

株式会社東陽テクニカ ☎03(3279)0771 FAX03(3246)0645

年頭のご挨拶

Greetings of the New Year



会長 浜田 昭雄
President Akio Hamada

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は先進国経済の低迷に対して、中国・インドをはじめとする進展国地域の経済発展が鮮明になった年でした。これらの地域では自家用車が普及段階に入り、現地生産の拡大と自動車技術の獲得に躍起になっている状況です。一方、先進諸国では環境技術の実用化に向け、国、地方自治体と産業界が一体となったさまざまな普及方策事業が進められており、自動車技術領域では電気をエネルギー源とする多様な駆動方式の実用化・社会実証実験に積極的に取り組まれています。また、これは、まったく新しい生産技術も要求されます。さらに、地球規模の低炭素化にはこの新たな技術領域の国際標準化も進めなければなりません。自動車技術者には新たな技術創造に向けたやりがいのある時代であると思います。このような背景を反映するかのように、当会の会員数は44,000名を超えております。

昨年の活動を振り返りますと、春季、秋季の学術講演会、今年、20回となる人とくるまのテクノロジー展、すでに8年経過した全日本学生フォーミュラ大会、それから横浜で実施しました第3回キッズエンジニアなど、

自動車技術会にとって主要なイベントを、一昨年の落ち込みを乗り越え過去最高の参加人数を得て開催することができました。

また、公益社団法人への移行については申請を2010年9月1日付けで行いました。現在、認定等委員会では審査が進行中であり、順当に審査が終了する場合には2011年4月1日に登記を終了し、5月には新しい公益社団法人・自動車技術会として定時総会を執り行う予定でございます。

公益社団法人元年を期に、あらためて会員の皆様へのサービス、公益社団法人として子供、若者へのモノづくり育成事業による社会貢献を念頭に置き、諸活動を推進して参りたいと考えます。

末筆ながら、会員の皆様のますますのご発展をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

1971年本田技研工業株式会社入社、1999年同社取締役、2001年ホンダエンジニアリング株式会社取締役社長、2005年ホンダオブアメリカマニュファクチャリング・インコーポレーテッド取締役社長、同年本田技研工業株式会社常務執行役員、現在、同社生産本部長、リスクマネジメントオフィサー、システム統括、専務取締役、品質統括部 兼任。

関西支部長就任にあたって



Seita Kanai

金井 誠太

社自動車技術会 関西支部長

2010年5月に、前関西支部長の谷口敏克氏の後を継いで大役に就任しました。

私の自動車産業とのつながりは、1974年に東洋工業（現マツダ）株式会社に入社して以来36年になります。1886年のベンツの三輪車とダイムラーの四輪車の発明から今日まで124年、1914年のT型フォードの近代的大量生産の開始から約1世紀、日本のモータリゼーションの急拡大から約半世紀。こうしてみると、私の36年間も決して短くありませんが、自身を振り返ってみると、これまでの多くの先人が築き上げてこられた技術を都合よく利用こそすれ、どれだけ進化に貢献してきたのかはなほだ心もとない次第です。

もちろん、自動車大国となった日本全体としては、技術と産業の発展にさまざまな世界的貢献をしてきたことに疑いの余地はありません。1970年代、実現不可能といわれたマスキー法の厳しい排ガス規制を世界に先駆けてクリアしました。日本車の品質は長らく世界のお手本でした。カイゼンやカンバン方式は世界の共通語になりました。ハイブリッド車やEVでは、今世界のリーダーです。

しかし、今日、（特に日本の）自動車産業は、いろいろな意味で「曲がり角」にあると感じます。CO₂削減に向けて各方面から急進的な要求を突きつけられています。新興国では急拡大する自動車需要の一方で、超低価格車の出現や産業と技術の自国内取り込みの強い意図などによって、われわれの事業を難しくしているだけでなく、技術流出も懸念されます。日本では長期的な需要の減少や、「若者のクルマ離れ、理系離れ」がいらわれています。

長期的にみれば、「いずれは避けられない脱化石燃料社会とそのときのエネルギー源のあり方とは？」という人類にとって非常に重い課題があります。その時代の到来をいつとみるか、そこに向かう筋書きがどうなるかに

ついては、ほとんどコンセンサスらしきものはありませんが、一足飛びにその時代が来るわけではなく、当面の20年、30年をみた現実解も極めて重要です。また並行して、自動車のさらなる安全や、より新しく多様な価値提供などへの取組みも放置できません。

こうした中で、どのように未来を予測し準備しておくか、ますます難しくなっています。

しかし、今後とも自動車は、道具として、文化として、産業として、世界中の人々にとって必要不可欠の存在であり、同時にそこに求められる技術は今後さらに多面化するとともに各側面もさらに深化していく、と私は確信しています。私達業界に身を置く者は、これらの要求に一段高いレベルで応える技術革新に挑戦し続けねばなりません。こうした挑戦こそが、多くの資源を輸入せざるを得ない日本の技術立国を支える糧であり、世界中の人々の豊かな生活と環境保全に貢献する日本の生き様であると考えます。

私達の世代には、先人から受け継いだ貴重な財産をさらに進化させて次世代にバトンタッチしていく義務、そして次世代を支える技術者を育てていく義務、の二つが課せられています。これらの義務を果たすために、自動車技術会として関西支部として何をすべきかをしっかり考えながら、今回の大役に取り組んでいきたいと考えます。皆様のご指導とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

1974年9月東京工業大学工学部機械工学科卒、同年10月マツダ株式会社入社。2004年6月常務執行役員 車両開発・開発管理担当、2006年6月取締役 専務執行役員 研究開発担当、2007年4月取締役 専務執行役員 研究開発担当、株式会社マツダ E&T 代表取締役社長、2010年1月取締役 専務執行役員研究開発・プログラム開発推進担当、株式会社マツダ E&T 代表取締役社長。

TOPICS Optimization! 3D Verification Technology for Automobile Design

Essay

Technology Innovation based on Convergence	Yasushi Fukunaga	2
Supercritical CO ₂ Gas Turbine Power System	Yasuyoshi Kato	112
New-Type Multi-Storey Parking Lot Equipment with EV Charging Function "Mitsubishi plug-in LIFTPARK" — New Type Ecological Multi-Storey Parking Lot Equipment —	Masaaki Saisho, Seiichi Noda, Hiroyasu Fujikawa	114

A Round-table Talk

Engine Technologies to the Future	Yasuhiro Daisho, Shigeo Furuno, Toshihiro Mibe, Junichi Yajima, Keisuke Tsujimoto, Yuichi Goto, Naoki Shimazaki	4
-----------------------------------	--	---

Experience Report

Motor Shows in the World — New Technologies in 2010 Motor Show —	Shigeru Chikata	12
--	-----------------	----

Technical Report

Report of 2010 ISO/TC204 Autumn Plenary & WG14 Meeting at Jeju Island	Yousuke Akatsu, Masafumi Nakayama	116
---	-----------------------------------	-----

Topics

The History of Supercomputing in the Automotive Industry and its Future Perspective	Makoto Tsubokura	18
Simulation Technologies to Support Design of Gasoline Engines	Yuuichi Shimasaki Yasushi Yoshihara, Tadashu Tsurushima, Hiroshi Takagishi, Kenjiro Nakama, Dai Tanaka, Hideaki Yokohata	25
Simulation Technologies for Development of Diesel Engines	Takuji Ishiyama Masakazu Yamazaki, Noboru Uchida, Kazuhisa Inagaki	33
Simulation Technology to Support a Drive Train Design	Shinji Kamada, Kenji Morita Kazuhiro Tanaka, Shingo Kodama, Toshihiro Saito, Takanori Nukata, Junichi Ogawa, Yasushi Yabe, Mikio Terada	40
Simulation Technologies for Vehicle Dynamics Design	Hiroshi Noguchi, Akira Miyagawa, Yusuke Kageyama	47
Simulation Technology for Active Safety	Takahiko Murano, Masami Aga, Takashi Yonekawa, Shin Tanaka	53
Simulation Technologies of Collision Analysis for Safety Design Methodology of Automobile	Atsushi Yokoyama, Yuji Egashira, Ryozo Mizuno	59
CAE Technology for NVH System Design Approach	Nobuya Hato, Hiroshi Shimada	66
Simulation Technologies to Support Manufacturing & Processing Technology	Motoshi Nakamura, Tomio Hayashi, Masahiro Mizutani	73
Simulation Technology for Supporting Electronics Design	Toru Yamaguchi, Toshi Shimada, Haruhiko Uroko-hara, Hitoshi Arima	79
Simulation Technologies that Support Vehicle Structural Design and FabricationI	Takahiko Miyachi	85
Current State of CFD Technology and Trend in the Future	Hideo Asano, Yuichi Itoh, Nobuyuki Oshima, Kenji Ono, Kozo Kitoh, Itsuhei Kohri, Ryutaro Koyama, Kiyoshi Shimada, Nariaki Horinouchi, Yasuo Moriyoshi	90
Simulation Technologies for Tire Design	Yasuo Osawa	97
Computer Graphics of Driving Visual Information which Considers Aging Change of Glare Veiling	Yoshiro Aoki	103
Numerical Analysis of Film Thickness of Electrodeposited Paint Coating for Automotive Body	Katsuhiko Ohara, Kenji Sakita, Yoshikazu Hayashi	107

会 員

■会員数

個人会員

(2010年12月1日現在)

賛助会員

内訳	支部								前年同月 比率 (%)	前年同月 計	合 計
	北海道	東 北	関 東	中 部	関 西	九 州	海 外	合 計			
名誉会員	0	0	29	9	3	2	0	43	102.4	42	529 (550社)
正 会 員	195	394	16 812	18 987	4 681	374	262	41 705	101.1	41 265	() 前年同月
準 会 員	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	
学生会員	82	167	1 225	566	524	150	3	2 717	101.6	2 675	
合 計	277	561	18,066	19 562	5 208	526	265	44 465	101.1	43 982	

■永年継続会員

(氏名五十音順, 敬称略)

2010年12月1日付をもって、下記の会員の方が永年継続会員となりました。永い間のご支援に心から感謝申し上げます。永年継続会員とは、「在会年数が継続して40年以上の会員」の方です。

相川 浩, 荒木一雄, 井上 等, 岡山 巧, 加賀純洋, 神谷公一, 須田賢二, 中津川恒生, 松井 實, 茂都宮 学, 山崎 均

■賛助会員紹介 下記の法人が2010年12月から入会致しました。

◆アイセロ化学株式会社

主な事業内容：機能性包装材料の製造・販売

住 所：愛知県豊橋市石巻本町字越川 45

電 話：0532-88-4618

名誉会員訃報



佐藤 豪 名誉会員

2010年12月3日、名誉会員の佐藤豪氏(享年89歳)がご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

1947年5月 入会
1992年5月 名誉会員

本会役員歴

評議員(1976年5月～1992年5月) 8期

理 事(1984年5月～1986年5月) 1期

副会長(1987年5月～1989年5月) 1期

お知らせ

自動車技術会代議員選挙

会誌「自動車技術」12月号に掲載しました自動車技術会代議員選挙告示の代議員定数を次の通り訂正いたします。

代議員定数 217名

●●● 会員資格更新のお知らせ ●●●

会員資格は毎年4月に自動更新となります。2011年度は2011年4月から2012年3月までの1年間です。会費のお支払いについては下記をご参照ください。

①銀行口座を登録されている方は、登録口座から5月6日に年会費を自動引落させていただきます。

(銀行口座を変更する場合)

お申し出から変更手続き完了まで約2ヶ月かかりますので、出来るだけお早めにご連絡をお願いいたします。

*会員番号をご用意の上、事務局「会員・情報課」までご連絡ください。手続きに必要な書類をお送りいたします。

*グループ扱い会員の方は、各グループ事務取扱担当者にお問い合わせください。

②郵便局からのお振込みの方は、4月に請求書兼郵便払込取扱票を郵送いたします。グループ扱い会員の方は、各グループ事務取扱担当者にお問い合わせください。

③賛助会員の方へは3月に請求書を送付いたします。

なお、今年度(2011年3月)中に会員資格の変更(学生会員から正会員への変更、減口、退会等)をご希望の場合は、3月10日(木)までに手続きをお願いいたします。今年度卒業予定となっている学生会員の方には、会員継続の確認を別途ご案内しております。資格変更手続きにつきましては、グループ扱い会員の方は、各グループ事務取扱担当者にお問い合わせください。グループに属さない会員の方は、事務局「会員・情報課」までご連絡をお願いいたします。

会員・情報課 E-mail: mbs@jsae.or.jp Tel: 03-3262-8213

国内開催会議予定

・太字（青色欄）は、(社)自動車技術会の主催又は共催

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
2011年 1.17	押出機による溶融混練Ⅱ	大阪ガス(株)ドームシティガスパビル 〔大阪府〕	(社)プラスチック成形加工学会 ☎ 03-5436-3822
1.19	シンポジウム(No.10-10) ディーゼルエンジン究極の効率を目指して	芝浦工業大学豊洲キャンパス 〔東京都〕	(社)自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 11月号に掲載
1.20-21	日本マリンエンジニアリング学会技術者継続教育 2010 年度「先進コース」(材料)講習会	神戸大学深江キャンパス 〔兵庫県〕	(社)日本マリンエンジニアリング学会 ☎ 03-3539-5920
1.20-21	GTSJ ガスタービンセミナー(第 39 回)	IHI 横浜事業所 〔神奈川県〕	(社)日本ガスタービン学会 ☎ 03-3365-0095
1.21	基礎教育講習会—エンジン技術の基礎と応用(その23)	三菱自動車工業パワートレイン製作所京都工場 〔京都府〕	(社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
1.25	進化する自動車の安全性能とそれを支える最新技術	大同大学滝春校舎 〔愛知県〕	(社)日本塑性加工学会 ☎ 03-3435-8301
1.25-26	電気化学セミナー 1「最先端電池技術-2011」	タワーホール船堀 〔東京都〕	(社)電気化学会 ☎ 03-3234-4213
1.28	技術者のための継続教育セミナー—ディスカッションによる技術者倫理—	日本機械学会 〔東京都〕	(社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
2.1	第 169 回ゴム技術シンポジウム「劣化の基礎と応用Ⅱ(光、熱、水、油)」	東京電業会館 〔東京都〕	(社)日本ゴム協会 ☎ 03-3401-2957
2.1	高齢者にやさしい自動車開発シンポジウム	グランドアーク半蔵門 〔東京都〕	福岡県商工部自動車産業振興室 ☎ 092-643-3447
2.3	電気自動車で求められる塑性加工と材料	大阪産業創造館 〔大阪府〕	(社)日本塑性加工学会 ☎ 03-3435-8301
2.14-15	国際ワークショップ(ISMAI-5)	湘南国際村センター 〔神奈川県〕	明治大学大学院理工学研究科機械工学専攻 ☎ 044-934-7242
2.17	平成 22 年度溶接工学入門 1 日講座	熊本大学工学部 〔熊本県〕	(社)溶接学会 ☎ 03-3253-0488
2.17-18	日本マリンエンジニアリング学会技術者継続教育 2010 年度「先進コース」(機装設計Ⅰ)講習会	東京桜田ビル 〔東京都〕	(社)日本マリンエンジニアリング学会 ☎ 03-3539-5920
3.1	学生安全技術デザインコンペティション 日本地域決勝大会	(社)自動車技術会会議室 〔東京都〕	(社)自動車技術会技術・教育・表彰グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: ikusei@jsae.or.jp
3.1-4	第 23 回自動車工学基礎講座(東京)	東京工業大学 〔東京都〕	(社)自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: kisokouza@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
3.2	シンポジウム(No.11-10) モータースポーツ技術と文化	工学院大学 〔東京都〕	(社)自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 12月号に掲載
3.4	シンポジウム(No.12-10) 新開発エンジン	日本大学駿河台キャンパス 〔東京都〕	(社)自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
3.4	無機複合プラスチック・無機/有機ハイブリッド材料の研究開発動向	愛知県産業労働センター 〔愛知県〕	(独)産業技術総合研究所中部センター ☎ 052-736-7153
3.10-11	モバイル'11「安心なモバイル社会づくりへ」	筑波大学総合研究棟 B 〔茨城県〕	(特)モバイル学会 ☎ 078-737-2349
3.11	第 26 回塗料・塗装研究発表会	工学院大学新宿キャンパス 〔東京都〕	日本塗装技術協会 ☎ 03-3663-5534

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
5.17-19	EVTeC' 11 1st International Electric Vehicle Technology Conference 2011	パシフィコ横浜 〔神奈川県〕	社自動車技術会技術・教育・表彰グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: tech@jsae.or.jp
5.18-20	2011 年春季大会	パシフィコ横浜 〔神奈川県〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: event@jsae.or.jp
5.18-20	自動車技術展：人とくるまのテクノロジー展 2011	パシフィコ横浜 〔神奈川県〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: tenjikai@jsae.or.jp
5.25-27	第 16 回計算工学講演会	東京大学柏キャンパス 〔千葉県〕	社日本計算工学会 ☎ 03-3219-3541
6.5-9	11th Asian Symposium on Visualization (ASV-11)	朱鷺メッセ 〔新潟県〕	社 ASV11 事務局 ☎ 025-262-6800
7.2-3	スケジューリング国際シンポジウム 2011 (Int.S.S.2011)	大阪大学中之島センター 〔大阪府〕	社日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
7.7-8	安全工学シンポジウム 2011	機械振興会館 〔東京都〕	社日本機械学会 ☎ 03-5360-3505
7.14-15	第 41 回信頼性・安全性シンポジウム	日本教育会館 〔東京都〕	社日本科学技術連盟 ☎ 03-5378-9850
7.24-29	ASME-JSME-KSME 流体コンファレンス 2011 (AJK2011)	アクトシティ浜松 〔静岡県〕	社日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
8.5-6	キッズエンジニア 2011	インテックス大阪 〔大阪府〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 詳細は 5 月上旬に HP 掲載
8.30-9.2	2011 P, F&L (Powertrains, Fuels and Lubricants)	京都テルサ 〔京都府〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 Email: 2011pfl@jsae.or.jp URL: http://www.jsae.or.jp/2011pfl/
9.4-7	第 40 回国際騒音制御工学会議	大阪国際会議場 〔大阪府〕	第 40 回国際騒音制御工学会議組織委員会 ☎ 042-321-2841
9.5-9	FAST-zero' 11 (International Symposium on Future Active Safety Technology - Toward zero - traffic - accident)	芝浦工業大学芝浦キャンパス 〔東京都〕	社 ICS コンベンションデザイン ☎ 03-3219-3541 E-mail: fast-zero11@ics-inc.co.jp
9.7	平成 23 年度工学教育連合講演会「サステナブル・ディベロップメントと工学教育」	北海道大学工学部 〔北海道〕	社日本工学教育協会 ☎ 03-5442-1021
9.8-10	平成 23 年度工学教育研究講演会	北海道大学大学院工学研究院 〔北海道〕	社日本工学教育協会 ☎ 03-5442-1021
10.3-6	第 4 回人間—生活環境系国際会議	北海道大学学術交流会館 〔北海道〕	人間—生活環境系国際会議組織委員会 ☎ 011-706-6281
10.12-14	2011 年秋季大会	札幌コンベンションセンター 〔北海道〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: event@jsae.or.jp
10.19-22	次世代ものづくり基盤技術産業展 2011	ポートメッセなごや 〔愛知県〕	名古屋国際見本市委員会 ☎ 052-735-4831
11.8-10	SETC 2011 (Small Engine Technology Conference)	札幌コンベンションセンター 〔北海道〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214 Email: SETC2011@jsae.or.jp URL: http://www.setc-jsae.com/
11.13-18	第 10 回国際ガスタービン会議 (IGTC' 11 Osaka)	大阪国際会議場 〔大阪府〕	社日本ガスタービン学会 ☎ 03-3365-0095
11.16-18	システムコントロールフェア 2011	東京ビッグサイト 〔東京都〕	社日本電機工業会・ 社日本電気制御機器工業会 ☎ 03-3556-5885
12.7-9	第 22 回内燃機関シンポジウム	東工大蔵前会館 〔東京都〕	社自動車技術会技術交流グループ ☎ 03-3262-8214
2012 4.15-18	第 13 回世界精密鋳造会議	京都国際会館 〔京都府〕	社日本鋳造協会 ☎ 03-3432-2991

● 当会が協賛している会議等には、当会会員が主催団体会員と同等の資格で参加できるものもありますので、主催団体に直接お問合せ下さい。
主催者が予告なく日程や会場等変更する場合がございますので、参加を希望される方は予め主催団体・連絡先にお問合せ下さい。

国外開催会議予定

・太字 (青色欄) は, (社)自動車技術会の主催又は共催

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
2011年 5.15-19	Vehicle Thermal Management Systems Conference & Exhibition — VTMS 10	Gaydon (Warwickshire, UK)	IMEchE Tel. +44 20 7973 1312 Email: s_love@imeche.org URL: http://www.imeche.org/events/c1305
5.22-27	8th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices'11 (ALC'11)	Olympic Parktel (Seoul, Korea)	(独)日本学術振興会 Tel. 075-753-5196 Email: alc11@jsps141.surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp URL: http://alc.surf.nuqe.nagoya-u.ac.jp/alc11/
10.6-8	APAC-16 (The 16th Asia Pacific Automotive Engineering Conference)	Chennai (India)	SAE India (インド自動車技術会) URL: http://www.apac16.org 詳細は主催者発表内容をご確認下さい。 国内問合せ先 (社)自動車技術会 国際・広報課 Tel. 03-3262-8211 Email: press@jsae.or.jp

このカレンダーは、国内外の関連機関から案内があった国際会議の中から掲載致しております。主催者が予告なく日程や会場等変更する場合がございますので、参加を希望される方は予め主催団体・連絡先にお問合せ下さい。

出版案内

会員著書紹介

購入先：一般書店または発行所へ直接ご注文下さい。



書 名：「動き出した レアメタル代替戦略」
著 者：原田幸明, 河西純一(正会員・フェロー)
発 行 所：日刊工業新聞社
東京都中央区日本橋小網町 14-1 TEL. 03-5644-7410 (販売・管理部) Fax. 03-5644-7400
体 裁：A5 版 237 ページ
定 価：2,100 円(本体 2,000 円+消費税)
発行年月：2010 年 11 月 30 日

レアメタルの資源供給制限が自動車産業を震え上がらせている。この供給リスクに対して何ができるか？究極解となり得る持続可能な解決に向けた代替材料開発の真髄を、企画・研究者や学生向けに解説した。資源問題の本質、抜本的代替技術のヒントとなる研究成果、今後の研究開発戦略と戦術に加え、2050 年以降を見据えて我々が目指すべき目標で締めくくった。

●●●自動車技術ハンドブック「設計 (EV・ハイブリッド) 編」●●●

予 約 受 付 中 !

(送料無料)

待望の「設計 (EV・ハイブリッド) 編」(第 10 分冊)を 2011 年 3 月下旬に発刊予定です。本会会員の皆様には、発行前に予約特別期間 (1/5 ~ 3/10) を設け「予約特別価格 (定価の 30%OFF) 送料無料」にて提供いたします。この機会に是非、同封の予約申込書にてお申込みください。本会 Web サイト / 会員マイページからもお申込みいただけます。

名 称：自動車技術ハンドブック 設計 (EV・ハイブリッド) 編
装 丁：B5 判 単色 (一部カラーグラビアあり)
並製本 約 440 頁
価 格：定価 5,775 円 (消費税込)
予約特別価格：4,043 円 (定価の 30% OFF)
送 本：2011 年 4 月中旬予定

詳細はこちらをご覧ください。
<http://tech.jsae.or.jp/hanbai/list.aspx?category=617>

問合せ先：出版グループ 吉村 Tel: 03-3262-8215
Fax: 03-3261-2204 E-mail: book@jsae.or.jp

問合せ先：技術交流グループ 石神 Tel. 03-3262-8214 Fax. 03-3261-2204
【http】//www.jsae.or.jp/sympo/2010/scdl.php E-mail: sympo@jsae.or.jp

日時：2011年3月4日(金) 9:30～16:30
会場：日本大学 駿河台キャンパス 9号館901室
(東京都千代田区神田駿河台3-11-3)
主催：(社)自動車技術会
企画：ガソリン機関部門委員会
ディーゼル機関部門委員会
協賛：(社)石油学会・(一社)日本エネルギー学会・(社)日本機械学会・日本内燃機関連合会・(社)日本マリンエンジニアリング学会・(社)日本陸用内燃機関協会

定員：120名

参加費(消費税込・テキスト1冊込)：

正会員 10,500円 学生会員 3,150円
賛助会員 22,050円 一般の方 31,500円
協賛学協会の会員 22,050円

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込み下さい。

- ①オンライン参加登録：(カード決済ができるようになりました) イベントカレンダー(【URL】<http://www.jsae.or.jp/calendar/>) または シンポジウムページ(【URL】<http://www.jsae.or.jp/sympo/2010/scdl.php>)
- ②インターネットをご利用できない方：
上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年2月25日(金)

参加申込キャンセルについて：

申込締切日まで：キャンセル料は発生いたしません。ご入金済の場合は、送金手数料を除き返金いたします。
申込締切日翌日以降：ご出欠にかかわらずキャンセル料として、参加費全額をお申し受けます。なお、開催終了後、テキストは送付いたします。

参加のおすすめ

近年は、小型乗用車から商用車に至るまで電動化の大波が押し寄せてきており、これからのエンジン開発は、多様化するパワートレインへの対応も重要になると考えられます。本年、「ポスト新長期」排気規制の施行や、更に厳しくなる燃費基準に向けて、ディーゼルもガソリンもクリーンで燃費の優れた多くの新開発エンジンが登場しました。本シンポジウムでは、これらのエンジン技術を紹介します。新たな共通の目標に向かって進みつつある、ガソリン・ディーゼルそれぞれの技術者が一堂に会し、両者の最新技術について活発で有益な議論を行えばと存じます。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

ガソリン機関部門委員会委員長 志賀聖一
ディーゼル機関部門委員会委員長 石山拓二

プログラム：

9:30 開会挨拶 ガソリン機関部門委員会委員長
群馬大学大学院 志賀聖一氏

司会 前田義男氏(株)本田技術研究所

【ガソリンエンジン I】

9:40 新世代水平対向FB型ガソリンエンジンの開発
富士重工業(株) 佐々木 礼氏

ガソリン機関部門委員会



委員長 志賀聖一 幹事 佐藤唯史 幹事 島崎勇一 幹事 津江光洋 幹事 前田義男

ディーゼル機関部門委員会



委員長 石山拓二 幹事 稲垣和久 幹事 内田 登 幹事 山寄雅和

*技術者育成の要素を持ったシンポジウムを技術レベルにより技術者育成講座として認定しています。

Standard Course：基礎, Intensive Course：中級, Professional Course：上級

10:20 Development of Gamma 1.6 & Kappa 1.2 Turbo-charged GDI Engines

Hyundai Motor Company Kitae Yeom 氏

11:00 休憩

司会 島崎勇一氏(トヨタ自動車(株))

【ガソリンエンジン II】

11:10 新型3気筒1.2Lガソリンエンジンの開発

愛知機械工業(株) 古田 満氏

11:50 新開発エンジンの紹介

スズキ(株) 田中竜司氏

12:30 昼食

司会 内田 登氏(日野自動車(株))

【ディーゼルエンジン I】

13:30 Euro5対応新型2.5Lディーゼルエンジンの開発

日産自動車(株) 河本桂二氏

14:10 Introduce of 6R10 Engine for JP09 (JP09規制対応6R10エンジンの紹介)

三菱ふそうトラック・バス(株) 藤野 豊氏

14:50 休憩

司会 山寄雅和(株)本田技術研究所

【ディーゼルエンジン II】

15:00 中型商用車用新4HK1TCエンジンの開発

いすゞ自動車(株) 日高達也氏

15:40 日野E13Cエンジンのポスト新長期排出ガス規制対応技術

日野自動車(株) 小和田 稔氏

16:20 閉会挨拶 ディーゼル機関部門委員会委員長

京都大学 石山拓二氏

16:30 終了

◆プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

～ 4日間で自動車工学全般の基本が習得できます！～
 エレクトロニクス分野を追加し講座内容を充実しました

会 期：2011年3月1日(火)～4日(金) 4日間
 会 場：東京工業大学大岡山キャンパス S222 講義室
 (東京都目黒区大岡山 2-12-1)
 【URL】 <http://www.titech.ac.jp/about/campus/index.html>
 主 催：(社)自動車技術会(企画) 技術者育成委員会
 定 員：200名
 参加費：正 会 員：9,000円 × 受講日数
 学生会員：2,000円 × 受講日数
 賛助会員：15,000円 × 受講日数
 一 般：20,000円 × 受講日数
 (消費税・テキスト込み)
 ※受講は1日単位とし、講座単位の受講はできません。

参加申込方法方法：次のいずれかの方法でお申込下さい。
 ①オンライン参加登録：(カード決済ができるようになりました) イベントカレンダー (【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/>) または自動車工学基礎講座ページ (【URL】 <http://www.jsae.or.jp/ikusei/kisokouza.php>)
 ②インターネットをご利用できない方：上記問合せ先参照
 申込締切日：2011年2月22日(火)
 参加申込キャンセルについて：
 申込締切日まで：キャンセル料は発生いたしません。ご入金済の場合は、送金手数料を除き返金いたします。
 申込締切日翌日以降：ご出欠にかかわらずキャンセル料として、参加費全額をお申し受けます。なお、開催終了後、テキストを送付いたします。

参加のおすすめ
 自動車は、様々な性能が絡み合って成り立っています。例えば、運動性能の技術開発をしている方がエンジン性能を全く知らないというのでは、昨今の技術開発は出来なくなりつつあります。また、最近の開発プロセスのフロントローディングの中で生産技術を知ることも重要になってきています。
 企業では、専門分野については教育やOJTなどで学ぶことはできますが、専門分野以外の技術については、なかなか知識を習得する機会がないのが現状です。また、大学では、自動車に関する講義は少ないのではないのでしょうか。更に開発に従事する技術者が生産技術についての基礎知識を習得することは、日本のものづくりを高度化していくためには必要と思います。
 このような中、本会では自動車技術者の継続的な能力開発について検討し、次の方々を対象とした本講座を開講いたします。
 ○自動車に係わる技術全般の知識を得たいと考えている入社後2～3年の技術者の方
 ○熟練技術者で自分の専門以外の自動車技術分野について学びたい方
 ○自動車について学びたい学生の方
 講義の前提となる予備知識は、大学理工系で学ぶ数学・力学で、特に機械系の力学の知識があれば、今まで学んだことが自動車技術として整理・理解することができます。予備知識の有無にかかわらず、様々な方が自動車技術の基礎知識を習得していただけるよう、出来る限り平易に解説いたします。
 また、「自動車工学—基礎」(会員価格2,940円定価3,675円)を事前学習していただくことをお勧めいたします。
 技術者育成委員会委員長 雑賀 高

講習会プログラム

日	時間	講義内容	講師
3月1日 (火)	9:00~10:00	1. 生産技術概要	井上真一氏(トヨタ自動車)
	10:10~11:10	2. 材料及加工法 ・ 自動車の構成材料 ・ 鉄系材料	藤川真一郎氏(日産自動車)
	11:20~12:20	・ 非鉄系 ・ 非金属材料	倉橋秀範氏 (ホンダエンジニアリング)
	13:20~15:30	3. CAD/CAM/CAE を活用した加工工程	関口 通氏, 鶴澤成雄氏(日野自動車)
	15:40~16:40	4. 組み付け, 組み立て工程と品質保証	永田哲也氏(マツダ)
3月2日 (水)	9:00~11:10	1. 車両計画 2. 車体設計	高原正雄氏(いすゞ自動車) [JSAE フェローエンジニア]
	法規と規格		
	11:20~12:20	1. 法規と規格	吉田 均氏(日本規格協会)
	エレクトロニクス		
	13:20~15:30	1. 制御工学 2. 予防安全システムとセンシング技術	鷲野翔一氏(鳥取環境大学) [JSAE フェローエンジニア], 中村哲也氏(デンソー) [JSAE フェローエンジニア]
振動・騒音性能			
15:40~17:50	1. 振動騒音	森村浩明氏(東京工業大学) [JSAE フェローエンジニア]	
3月3日 (木)	技術者倫理		
	9:00~10:00	1. 自動車と技術者倫理	雑賀 高氏(工学院大学)
	運動性能		
	10:10~11:10	1. タイヤ力学	近森 順氏(元成蹊大学・芝浦工業大学) [自動車技術会名誉会員]
	11:20~12:20 12:20~13:20 休憩 13:20~14:20	2. 運動力学	菅沢 深氏(玉川大学) [JSAE フェローエンジニア]
14:30~15:30	3. ドライバー自動車系	近森 順氏(元成蹊大学・芝浦工業大学) [自動車技術会名誉会員]	
制動性能			
15:40~17:50	1. 制動性能	川口 裕氏(東京電機大学)	
パシブ・セイフティ			
9:00~10:00	1. 衝突安全	嶋村宗正氏(千葉科学大学)	
エンジン性能			
10:10~11:20	1. エンジン概論 2. ディーゼル機関	新井雅隆氏(群馬大学)	
11:30~12:20	3. ガソリン機関	川那辺 洋氏(京都大学)	
13:20~14:05	4. 燃焼と排気	小熊光晴氏(産業技術総合研究所)	
14:15~15:00	5. 新燃料・新方式原動機		
動力伝達性能			
15:10~17:20	1. 走行性能	人見宣輝氏(スーパー連携大学院)	
	2. 動力伝達装置		
	3. EV・HVにおける動力伝達		

*プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

参加者募集 関西支部

2010 年度第 6 回例会

問合せ先：関西支部 高森・勘坂 Tel. 06-6451-3630

日 時：2011 年 2 月 11 日(金) 12:30~16:50
 会 場：三菱自動車工業(株)水島製作所
 (倉敷市水島海岸通 1-1)
 定 員：50 名
 参 加 費：正会員 1,000 円, 学生会員 500 円, 会員外 2,000 円
 申込締切日：2011 年 2 月 4 日(金)

15:10 質疑応答
 15:25 休憩
 15:40 講演会
 「新世代電気自動車『i-MiEV』の技術紹介と将来展望」
 三菱自動車工業(株) EV システム開発 宮本勝彦氏
 16:30 貸切バスで移動
 16:50 JR 新幹線「新倉敷」にて解散
 連絡先：(株)自動車技術会 関西支部

スケジュール：

12:30 JR 新幹線「新倉敷」北口に集合
 12:30 貸切バスで移動
 13:00 会社紹介
 13:30 工場見学と試乗
 ①工場見学：i-MiEV 製造ライン
 ②試 乗：i-MiEV

〒531-6008 大阪市北区大淀中 1-1-88-800
 マツダ(株)大阪支社内
 TEL. 06-6451-3630 FAX. 06-6451-3631
 E-mail : jsaekansai@r4.dion.ne.jp

参加者募集 関東支部

第 2 回講習会「実験 SEA 解析入門」

記号〔Q〕

問合せ先：関東支部 田渡・大野 Tel. 0466-52-5758 E-mail: SND52611@nifty.com

テ ー マ：実験 SEA の有効性と適応例について
 日 時：2011 年 2 月 25 日(金) 10:00 ~ 17:00
 会 場：株式会社小野測器本社ビル 2F セミナールーム
 横浜市港北区新横浜 3-9-3
 Tel. 045-935-3888 Fax. 045-470-7242
 JR 横浜線新横浜駅徒歩約 5 分
 (注：駐車場はありません。お車での来場はご遠慮下さい。)
 会場案内図：http://www.onosokki.co.jp/HP-WK/company/contents/map/shinyoko_map.html

講演概要：

統計的エネルギー解析法 (SEA) は騒音振動の予測手法として、自動車、家電製品、OA 機器など様々な分野で適用が試みられ、実用化されつつあります。SEA は、モーダル解析や有限要素法 (FEM) などの音振動シミュレーションと比較して、高い周波数領域において有効な解析手法として注目されています。本セミナーでは、SEA の全体像、その一つとして新たに実用化した実験 SEA 解析の考え方、実製品開発への利用の仕方などについて、自動車や事務機器への適用事例を交えてわかりやすく解説し、有効性を実感していただきます。

〔10:00 ~ 12:00 SEA 適用の事例紹介〕

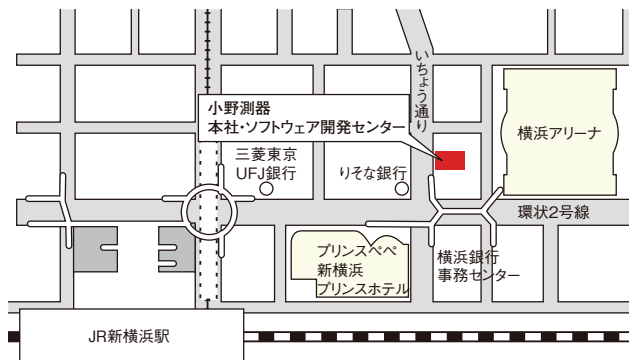
実験 SEA の使い方はすぐに身につけられますが、その解析結果の良悪の判断、有効的な活用については、SEA の基本的な考え方の理解が欠かせません。午前中では、SEA の特徴をはじめ、低騒音化のプロセスの中で重要となるポイントについて、事例を交えながら解説します。

〔13:00 ~ 14:30 SEA 理論〕

実験 SEA の他、解析 SEA、FEM 援用 SEA の特徴と、それぞれの理論について解説します。

〔14:45 ~ 17:00 実験 SEA ソフトウェアの実習〕

実際の対策における作業プロセスを実感していただけるよう、最新の実験 SEA ソフトウェアを用いた実習を行います。



スケジュール：

9:30 受付開始
 10:00 SEA とは、事例紹介
 神奈川大学工学部機械工学科 教授 山崎 徹氏
 12:00 昼食
 13:00 SEA 理論
 神奈川大学工学部機械工学科 教授 山崎 徹氏
 14:30 休憩
 14:45 実験 SEA ソフトウェアの実習
 (株)小野測器技術本部 柏倉 健氏
 17:00 終了

定員：20 名

申込方法：126 頁「参加申込方法」に従って必要事項を記載のうえ、お申し込みください。

申込締切日：2011 年 2 月 15 日(火)

参 加 費：個人会員：5,000 円, 学生会員：2,000 円
 賛助会員：10,000 円, 会 員 外：15,000 円
 教材、及び 昼食代を含みます。(当日会場でお支払い頂きます。領収書を発行致します。)

日時：2011年3月4日(金) 13:00～19:00
会場：同志社大学 今出川校地寒梅館
京都市上京区烏丸通り上立売下御所八幡町 103
(TEL: 075-251-3199)

定員：80名
参加費：正会員 5,000円, 学生会員 2,000円
会員外 7,000円(資料代・懇親会費含む)

申込締切：2011年2月25日(金)

趣旨：参加頂く皆様方が「言いたい放題」意見を出し合う会です。第1,2部は(メインテーマ)「自動車業界活性化方策～挑戦するエンジニアの育成～」について自由な討論を行います。第3部では参加者相互の交流をより深めるため懇親・歓談の場を提供いたします。

スケジュール：

13:00 開会挨拶 関西支部長 金井 誠太氏
13:10 第1部 司会 河原 伸幸氏(岡山大学)
サブテーマ1 新技術革新発想・構築方法
講演1「ロードスターの開発と技術者の育成」

元マツダ(株)開発主査 貴島 孝雄氏
講演2「三菱自動車における4WD技術の進化とその将来」 三菱自動車工業(株) 澤瀬 薫氏
サブテーマ2「若手エンジニアの活動(学生フォーミュラ活動からの発展)」

講演3「学生フォーミュラ活動で培った知識・技術」
マツダ(株) 城阪 哲哉氏/木津 志基氏

15:10 第2部:自由討論 司会 河原 伸幸氏(岡山大学)
テーマ「挑戦するエンジニアの育成」

学生自動車研究会・学生を交え自由討論を行います。

17:00 第3部：懇親・交流会
発表者と忌憚のない意見交換の場を提供

19:00 閉会挨拶 (株)堀場製作所 武田 賢二氏

連絡先：(社)自動車技術会 関西支部

〒531-6008 大阪市北区大淀中 1-1-88-800
マツダ(株)大阪支社内
TEL. 06-6451-3630 FAX. 06-6451-3631
E-mail: jsaekansai@r4.dion.ne.jp

報 告

第8回 全日本 学生フォーミュラ大会レビュー(Web版)発行！

第8回目を迎える全日本 学生フォーミュラ大会は、9月7日(火)～11日(土)の5日間の日程で静岡県・掛川市の小笠山総合運動公園(通称：エコパ)にて開催されました。

今大会にエントリーしたチームは、昨年の80チームから更に増え、国内75チーム、海外10チーム合計85チームとなりました。事前書類選考を75チームが通過、最終的には国内64チーム、海外6チーム(韓国、中国、タイ、ドイツ)の70チームが大会に参加し、熱戦を繰り広げました。その競技結果および各チームの車両スペックや出場校チームレポート等を紹介しています。

第8回 全日本 学生フォーミュラ大会レビュー(Web版)は、本会ウェブサイトにてご覧いただけます。

【URL】<http://www.jsae.or.jp/formula/jp/>



●●● ●●● ●●● ご存知でしたか? ●●● ●●●

本誌「自動車技術」は、2010年1月号発行より全面フルカラー改訂に伴い、記事の図表・写真をよりわかりやすく効果的に表現をするよう試行錯誤を重ねてまいりました。如何でしたでしょうか？ 実は、本誌の「背表紙」もひと工夫加えてみました！

2010年1月号より12月号まで背表紙を号の順番で整列させると「一枚の写真」になります。お気づきの読者の方もいらっしゃるかもしれませんが、2010年は「第7回全日本 学生フォーミュラ大会の集合写真」でした。

2011年本号より新たに、自動車技術会のイベント写真が徐々に現われます！読者の皆様には、本誌を今後ともご愛読頂けるようこれまで以上に充実した技術情報を提供して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

～会誌「自動車技術」担当～



第7回全日本 学生フォーミュラ大会集合写真

テーマ：高い生産効率を実現する一人セル生産方式の見学
日時：2011年3月10日(木) 12:30~15:30
会場：日立アプライアンス(株) 栃木事業所
〒329-4493 栃木県栃木市大平町富田 800 番地
TEL. 0282-43-1122
ホームページ <http://www.hitachi-ap.co.jp/company/about/address1.html>

集合場所：栃木事業所 講堂
(「正門」の左手に入場門および講堂があります。)

集合時間：12:30
(東武日光線 浅草 10:50 発 区間快速 東武日光・会津田島行き新大平下 12:16 着が便利です。車での来場をご希望の方は、申込み時にその旨ご連絡下さい。)

見学概要：同社は2008年、独自のセル生産方式で『日経ものづくり大賞』を受賞した。大型家電製品を一人で組み立ててしまう『総組一人セル』生産において生産性向上のためのさまざまな装置や工夫を用いた取り組みをすすめています。実際に工場で一人セル生産方式が導入されている大型冷蔵庫の組立ラインを見学します。』

スケジュール
12:30 昼食(お弁当を用意します。)
13:10 挨拶・ミニ講演(含 会社概要)
テーマ：栃木事業所「生産革新活動」の紹介
14:00 大型冷蔵庫 製造ライン見学
15:00 休憩
15:10 質疑応答
15:30 終了
定員：40名

関東支部行事への参加申込方法：

1) 行事の記号, 2) 氏名, 3) 勤務先及び所属署・役職名(学生の場合は学校名・学年), 4) 連絡先住所・電話番号・Fax 番号, 5) 会員番号, 6) 年齢を明記の上, 下記いずれかによりお申込み下さい。

(1) E-mail: 返信により参加証を送信いたします。
(2) Fax: 参加証送付先 Fax 番号をご記入下さい。
(3) 往復はがき: 返信はがきに宛名(参加証送付先)をご記入下さい。

※定員になり次第, 締め切らせていただきます。申込多数の場合は, 個人会員を優先させていただきます。また, 参加者が著しく少ない場合など, やむを得ない事情により中止または変更することがあります。

申込先：〒252-0805 神奈川県藤沢市円行 2-25-1
セミナーハウス湘南台 いすゞ自動車(株)内
(社)自動車技術会関東支部
Tel. 0466-52-5758 Fax. 0466-52-5740
E-mail: SND52611@nifty.com

申込締切日：2011年3月2日(水)
(定員になり次第, 締め切らせていただきます。申し込み多数の場合は, 会員を優先させていただきます。)

参加費：個人会員：1,000円, 学生会員：無料
賛助会員：2,000円, 会員外：4,000円
(当日会場でお支払い頂きます。領収書を発行致します。)

同業者の参加：不可
工場, 講演の撮影・録音：禁止(展示物のみ写真撮影可)

出版案内

安全教育用 DVD 「ドライブレコーダは見た! Vol.2」

[Vol.1] の発売から1年, 購入頂いた皆様から続編についてのお問合せを多数頂き, ご要望にお応えして[Vol.2] を発行しました!

◆「ドライブレコーダは見た!」DVD シリーズとは

ドライブレコーダが記録した, 実際のヒヤリハット・事故映像を見ながら「KYT: 危険予知トレーニング」が行える安全教育用 DVD です。

◎職場の交通安全教育に最適 ◎【収録映像 80 件】全て新映像

本 DVD の特徴のひとつは映像が全て「実写」であること。実際に起こった事例を見ることで, 危険予知の重要性を実感できます。

◆新機能でさらに使いやすくなりました

【ブレーキ・方向指示器作動表示】

「早めにブレーキをかけていたか」「車線変更時, きちんとウィンカー表示をしていたか」など, 事故を未然に防ぐポイントが確認できます。

【周辺地図表示機能「マップビュー」】

事例発生現場周辺の道路地図を分かりやすく表示。どのような危険があるのか検討したり, 状況を確認したりするのに役立ちます。

購入方法：本会ホームページの出版案内からお申込み頂けます。また, 新刊が発行される都度, 自動的にお届けする年間購読もごさいます。迅速に入手でき, 買い忘れを防ぐことができる大変便利なシステムです。
(<http://tech.jsae.or.jp/hanbai/>)



テーマ：高齢者が颯爽と運転する安全な自動車のコンセプトを提案します。

日時：2011年2月1日(火) 13:00~15:30

会場：ホテル「グランドアーク半蔵門」富士の間

〒102-0092 東京都千代田区隼町1-1

(会場へアクセス)

地下鉄半蔵門線・半蔵門駅1番出口より徒歩2分、

地下鉄有楽町線・麴町駅1番出口より徒歩7分、

東京駅よりタクシーにて約10分

TEL. 03-3288-0111 (代表)、

フリーコール：0800-100-1139

(詳細地図は <http://www.grandarc.com/sightseeing/index.html> からご覧いただけます。)

主催：高齢者にやさしい自動車開発推進知事連合

後援：(予定)：国土交通省、経済産業省、警察庁、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、ダイハツ工業(株)、本田技研工業(株)、スズキ(株)、富士重工業(株)、マツダ(株)、三菱自動車工業(株) 全国老人クラブ連合会、全国地域婦人団体連絡協議会

協賛(予定)：(株)自動車技術会、(一社)日本自動車工業会、(社)日本自動車連盟、(財)日本自動車研究所、(社)全日本軽自動車協会連合会、(社)日本自動車販売協会連合会、(社)日本自動車部品工業会

定員：300名

参加費：無料

申込方法：下記 URL から、または FAX にて下記へお申込下さい。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp>

→ 福岡県ホームページから「高齢者にやさしい自動車」で検索して参加登録へ

または、<http://www.jari.or.jp>

→ イベント情報をクリックして参加登録へ

(財)日本自動車研究所 環境政策研究室

〒305-0822 茨城県つくば市荻間 2530

Tel. 029-856-0767 Fax. 029-860-2388

参加申込締切日：2011年1月26日(水)

※お申込が定員に達した場合は、締め切り日前に参加をお断りさせていただく可能性もございますので、あらかじめご了承ください。

背景と目的

高齢化の進展に伴い、高齢ドライバーは、今後急速に増加する見込みです。高齢ドライバーによる交通事故も増加傾向にあります。しかし、地方の高齢者にとって、日用品の買い物や病院への通院など日常生活の足として、自動車は必要不可欠です。

このような中、2009年5月に高齢者が颯爽と運転する安全な自動車の開発を推進することを目的として、全国35道府県の知事で構成する「高齢者にやさしい自動車開発推進知事連合」が発足しました。2009年7月には知事連合の下に、専門的な見地から検討を行うための「高齢者にやさしい自動車開発委員会」を設置し、これまでに高齢ドライバーの事故分析や1万人を超える高齢ドライバーアンケート調査を実施し、高齢者にやさしい自動車のコンセプトを検討してきました。

本シンポジウムでは、国や自動車メーカーに対して、高齢者にやさしい自動車のコンセプトとして、高齢者のための支援機能や車の使用実態に対応する2人乗り小型車の新しい車両を提案します。そして、全国の高齢ドライバーの声を反映した新たな自動車の必要性を全国に向けて発信します。

プログラム

13:00 開会挨拶 知事連合会長 麻生渡福岡県知事

13:20 来賓紹介

13:25 知事連合活動報告

高齢者にやさしい自動車コンセプトのCG上映

高齢者にやさしい自動車デザインコンテスト表彰式

14:05 休憩

14:15 パネルディスカッション

コーディネーター：

小林敏雄(日本自動車研究所 所長)

パネリスト：

鎌田 実(東京大学高齢社会総合研究機構機構長)

小田曜作(国土交通省自動車交通局技術安全部環境課長)

自動車業界代表(日本自動車工業会)

横関ヨシ子(全国地域婦人団体連絡協議会全理事)

15:25 終了

※プログラムの内容が一部変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

出版案内

会員著書紹介

購入先：一般書店または発行所へ直接ご注文下さい。



書名：「2030年 超高齢未来」

著者：東京大学高齢社会総合研究機構 鎌田 実(正会員・フェロー)

発行所：東洋経済新報社 〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町1-2-1 TEL. 03-5605-7021

体裁：四六版 216頁

定価：1575円(消費税込)

発行年月：2010年12月

今でも日本の高齢化率は世界一であるが、2030年には三十数%となり超高齢社会を迎える。そこでは、年金・医療・介護のみならず、住宅やまちづくりなどまで激変する社会になっていく。若い人も夢を持つる将来になるためには、大きな発想の転換を必要とし、それも早く取り組む必要がある。本書では、課題の明確化と対処法の一案について平易に解説してある。

(文：鎌田 実)

- 1) 理事合計 48 名中出席理事：27 名
 浜田昭雄, 新井雅隆, 飯田明由, 岩田悟志, 内山田竹志,
 小川英之, 加藤聰, 金澤啓隆, 鎌田実, 北野三千雄, 草鹿仁,
 窪塚孝夫, 後藤新一, 塩路昌宏, 篠原彰, 杉浦精一, 杉 光,
 杉本富史, 登坂茂, 中野史郎, 福田滝太郎, 福森幹郎, 堀内
 勇二, 増田義彦, 村瀬英一, 横森求, 若林克彦
- 2) 委任状提出理事：20 名
- 3) 出席監事：高原正雄, 永井正夫

議 事：浜田会長を議長として以下の議事が行われた。

2010 年 9 月 1 日現在の個人会員数は 44,395 名となり, 賛助
 会員は 527 社となったことが報告された。

第 1 号議案：2011 年度事業計画及び予算編成の基本方針(素
 案)の件

2011 年度の事業計画並びに予算編成の基本方針について,
 最新技術トピックスを適宜反映した学術講演, 技術展示,
 規格・標準化, 出版事業, 子供若者へのモノづくり育成事
 業により, 会員の満足度向上ならびに本会の社会的認知度
 向上を目指したい, 公益法人元年を象徴する事業を企画・
 推進する, また予算編成の基本方針については 2010 年度並
 みの収入を前提に事業を計画するとの説明があり, 提案通
 り承認された。また, より適切な表現などがあった場合には,
 内容に変更の無い範囲で事務局にて修正を行うことが併せ
 て承認された。

第 2 号議案：2012 年秋季大会会場の件

2012 年秋季大会を大阪国際会議場で開催する件が提案さ
 れ承認された。

報告事項

(1) 2010 年度 8 月期会計報告の件

2010 年 8 月末現在の収支について, 例年並みに推移して
 いるとの説明があった。また, 広告料収入については進捗
 率が 29%であり, 年度末まで回復しない見込みもあるとの
 説明があった。

(2) 第 3 回キッズエンジニア 2010 開催報告及び第 4 回キッズ
 エンジニア 2011 開催概要の件

2010 年 7 月 30 日～31 日にパシフィコ横浜で第 3 回キッ
 ズエンジニア 2010 を開催した。また, 第 4 回キッズエンジ
 ニア 2011 を 2011 年 8 月 5 日～6 日にインテックス大阪に
 て開催する。

(3) 第 8 回全日本 学生フォーミュラ大会開催報告の件

2010 年 9 月 7 日～11 日に静岡県エコパで第 8 回全日本
 学生フォーミュラ大会を開催した。エントリー 85 チーム,
 うち 70 チームが出場した。期間中, 台風の影響を受け一
 部のスケジュールや会場変更を行ったが大きな混乱は無く,
 また, 比較的軽度の傷病者は出たが競技中の車両に関わる
 事故は無かった。

(4) EVTeC'11 (EV 技術国際会議) 準備状況の件

2011 年 5 月に EVTeC'11 を開催する。

Call for papers を 9 月上旬に発行した。

(5) 2009 年度「技術部門貢献賞」受賞者の件

2009 年度技術部門貢献賞を 36 名に授与する。

(6) 2010 年春季大会学術講演会「優秀講演発表賞」の件

学術講演会運営委員会での選考に基づき合計 10 件に授与
 する。

(7) 2010 年度上期規格委員会活動報告の件

2010 年度上期の規格委員会および傘下の部会・分科会
 の主な活動が報告された。

(8) 2010 年度第 2 四半期刊行物の件

7 月～9 月に発刊された出版物について報告された。

(9) APAC-16 対応委員会設置の件

インド・チェンナイにて開催される APAC-16 の対応委員
 会を設置する。

(10) オートテクノロジーに関する件

総務委員会が企画しているオートテクノロジー誌の出版
 方針を, 技術解説書から技術者に焦点を当てた読み物に変
 更する。

お知らせ

「自動車技術」Vol. 65, No. 2 以降の特集テーマ

Vol.	No.	発行日	特集テーマ	技術分野
65	2	2011 年 2 月 1 日	ITSテレマティクスサービスの現状と将来(仮)	部品, エレクトロニクス, 情報通信(IT)
	3	2011 年 3 月 1 日	最近のパワートレイン制御技術(仮)	エンジン・各種動力, 動力伝達装置
	4	2011 年 4 月 1 日	電池と燃料電池	自動車基礎技術
	5	2011 年 5 月 1 日	標準化と特許(仮)	関連業界
	6	2011 年 6 月 1 日	新しい素材と成形技術(仮)	生産技術, 市場(サービス・整備), デザイン・設計
	7	2011 年 7 月 1 日	試験計測技術と自動車の進化(仮)	試験・計測, 振動・騒音, 乗り心地
	8	2011 年 8 月 1 日	—	(年鑑)
	9	2011 年 9 月 1 日	進化を続けるパワートレイン技術(仮)	エネルギー・電気動力・動力伝達装置(各種動力)
	10	2011 年 10 月 1 日	響け!日本の MONO づくり(仮)	車両運動性能, ボデー・シャシ, 安全・安心(車両関係)

※なお, 特集テーマは変更になる場合があります。

- 1) 理事合計 48 名中出席理事：15 名
浜田昭雄, 浅見孝雄, 新井雅隆, 小川英之, 岸本喜久雄, 草鹿仁, 窪塚孝夫, 佐々木希, 篠原彰, 杉本富史, 中野史郎, 中山寛治, 本田恭彦, 三武良光, 村瀬英一
- 2) 委任状提出理事：32 名
- 3) 出席監事：高原正雄, 永井正夫

議 事：

開会に先立ち、浜田会長より、本会は9月1日に内閣府公益認定等委員会に公益法人認定申請を行ったが、審査過程において、定款変更案に対する修正等の指導があり、公益社団法人対応委員会にて検討した結果を臨時総会に上程するため、臨時に招集させていただいたとの説明があり、浜田会長を議長として以下の議事が行われた。

報告事項：

(1) 公益認定等委員会審査状況の件

2010年9月1日に提出した公益社団法人移行認定申請書について、公益認定等委員会の審査状況、定款に関する指摘事項、会員限定事業に関する指摘事項について報告があった。

第 1 号議案：定款変更案修正の件

公益認定等委員会の指導に基づく定款変更案の修正について説明があった。修正箇所は、補欠代議員の任期、総会議事録の署名人、理事及び監事の損害賠償責任の免除、最初の代議員の選出に関する附則の箇所である。併せて、修正された定款変更案について総会での議決が必要となるため臨時総会の開催の要請があり、異議無く提案通り承認された。

第 2 号議案：代議員規則処理基準改正の件

代議員規則処理基準の代議員定数の算出基準について、支部別に人数を算出する方法から、全国一括に有権者数 190 人に 1 人とする方法に変更したいとの提案があり、異議無く承認された。

第 3 号議案：選挙管理委員選出の件

第 1 回代議員選挙の選挙管理委員の提案があり、異議無く承認された。

第 4 号議案：評議員会、及び臨時総会開催の件

総会提案事項を承認するための書面審議による評議員会、及び定款変更案修正のための臨時総会を 2011 年 1 月 28 日に如水会館にて開催したいとの提案があり、異議無く承認された。

新刊案内

自動車技術会論文集 Vol.41, No.6

内容問合せ先：出版グループ 飯島 Tel. 03-3262-8215
申込み先：出版グループ 吉村 E-mail: book@jsae.or.jp

■自動車技術会論文集 Vol.41, No.6, 2010

【発行月】2010年11月

【掲載論文数】41編

【体裁】A4判 264ページ

【価格】定 価：4,200円(消費税込)

会員価格：3,360円(消費税込)

購入方法：本会ホームページの出版案内からお申込み頂けます。また、新刊が発行される都度、自動的にお届けする年間購読もごぞいます。迅速に入手でき、買い忘れを防ぐことができる大変便利なシステムです。

(<http://tech.jsae.or.jp/hanbai/>)

論文投稿募集

◆自動車技術会論文集

◆International Journal of Automotive Engineering

自動車技術会では、2010年6月より論文集を日本語論文集と英語論文集と2種類に分け、日本語論文は「自動車技術会論文集」、英語論文は「International Journal of Automotive Engineering」に掲載していくことに致しました。

学術的・工学的・技術的価値のある研究成果を広く紹介し、自動車に係わる様々な技術、研究に対する社会的理解を深めるため、「自動車技術会論文集」、「International Journal of Automotive Engineering」への投稿をお勧めいたしております。

①自動車技術会論文集

- ・日本語論文集/年6回発行、冊子形式
- ・論文投稿：<http://www.jsae.or.jp/menu2/ronbun.php>

② International Journal of Automotive Engineering

- ・英語論文集/年4回発行、電子ジャーナル形式 (掲載論文は逐次WEBサイトにて公開)
 - ・論文投稿：<http://www.jsae.or.jp/IJAE/>
- なお、掲載論文は審査の上決定致します。皆様のご投稿をお待ちしております。

- 自動車エンジニアレベル認定のための継続能力開発ポイントの対象です。

お問合せ先：出版グループ 飯島
ronbun@jsae.or.jp

日本の将来を担う若者(高校生)に、自動車のエンジンを自らの手で分解・組立て・始動するという体験を通して、ものづくりの楽しさや奥深さを認識してもらうことを目的として開催した。さらに学校教育現場で人材育成に関わる専門高校教員にも本講座を開放すると共に、八戸工業大学の実習教室と設備・スタッフを活用し、日本の自動車技術の一端を実地体験する教室として、諸機関と連携して広く市民に伝える場とした。

報告概要：

日 時：2010年8月3日(火)～8月6日(金)4日間
 ・第9回 高校生のためのエンジン解剖体験教室
 ・第3回専門高校教員のためのエンジン解剖実技研修
 2010年8月23日(月)～8月26日(木)4日間
 ・第3回専門高校教員のためのエンジン解剖実技研修
 会 場：八戸工業大学 機械情報技術学科(青森県八戸市大字妙字大開 88-1)

内 容：講演会 自動車エンジンの基礎と概要説明
 体験教室 エンジン解剖体験教室

参加数：高校生26名、高校等教職員5名

結 果：八戸工業大学・機械情報技術学科1学年必修「エンジン解剖実習」を高校生に開放し、一緒に体験してもらうことで機械に対する興味を深める目的で開催されており、八戸市内の高校生がエンジン解剖に熱心に取り組んだ。また、昨年度に引続き、専門高校教員のスキルアップの一助として、本年は、山形県、岩手県、青森県から計5名の教員が参加した。

受講者は5～6名の班に分かれて、実物の自動車エンジンをネジ1本まで分解、洗浄した後、調整しながら元通りに組み立て、エンジンを実際に始動させた。指導には自動車整備のエキスパートの田高実習講師を中心に、自らの車を分解・整備してしまうほど車が大好きな機械情報技術学科・工藤准教授や先輩学部生や大学院生のアシスタントも加わり、工具の使い方や部品の組み付け方のアドバイスを受けながらエンジンの分解組み立てに挑戦し、無事すべてのエンジンを始動することに成功した。

出版案内

自動車技術文献抄録誌掲載データ(CD-R)

問合せ先：出版グループ 吉村 Tel.03-3262-8215 Fax.03-3261-2204 E-mail: book@jsae.or.jp

「自動車技術文献抄録誌」の抄録を1年単位(1月～12月)でデータにて販売しています。海外文献の検索・技術動向調査・データベース化に活用いただけます。

自動車技術文献抄録誌掲載データ(CD-R)

- ◆形 態◆テキスト形式のデータをCD-Rにて提供
収録件数：2,600～3,000件
- ◆価 格◆抄録誌年間購読者※ 定価 105,000円 会員価格 84,000円
抄録誌年間非購読者 定価 157,500円 会員価格 126,000円



◆申込方法◆

本会ウェブサイト → 出版案内 → 自動車技術文献抄録誌掲載データ(CD-ROM)
 (下記 URL) または Fax でお申込み下さい。

【URL】 <http://tech.jsae.or.jp/hanbai/>

※ PDF・冊子・CD-ROM で年間購読している方々

■自動車技術文献抄録誌とは！

◆メリット

- ①海外の国際会議に出向かなくとも、最新の技術情報を日本語抄録の状態ですぐ入手できます。
- ②膨大な量の英語論文を読む時間のないお忙しい方にこそ、効率よく概要を入手できて便利です。
- ③年間購読のため、主要国際会議の開催後、自動的に情報がお手元に届きます。
- ④大手カーメーカの方が中心となって作成した抄録文は、高い信頼性があります。
- ⑤詳細情報が必要な場合は、「文献複写サービス」で、論文原本の複写を効率よく入手できます。

◆掲載内容：SAE Paper (World Congress, F&L, APAC など) 国内外メーカ技報
 FISITA ATZ・MTZ(エンジン開発) など

●新刊が発行される都度、自動的にお届けする年間購読もごさいます。詳細はこちら <http://tech.jsae.or.jp/hanbai/>



「電気自動車・プラグインハイブリッド自動車のための 充電設備設置にあたってのガイドブック」の公表について

電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の普及に備えて、充電設備を新たに設置しようとする者が検討すべき事項や注意すべき事項について、関連企業・団体等の協力を得つつ、「電気自動車・プラグインハイブリッド自動車のための充電設備設置にあたってのガイドブック」を作成いたしましたので、お知らせいたします。

1. 京都議定書における目標として温室効果ガス排出量を1990年比6%削減することを定め、また、CO2総排出量のうち、運輸部門の排出量は約20%で、その9割が自動車からの排出量とされているところであり、環境対応車の開発・普及促進等の施策を総合的に推進することを目指しております。
2. 充電設備を新たに設置する場合には、その設置場所の形態等によって検討すべき事項や注意すべき事項が異なります。
3. このため、国土交通省と経済産業省は、関連企業・団体等の協力を得つつ、充電設備の設置に関する現時点での情報

を取りまとめ、充電設備を新たに設置しようとする方の参考となる「電気自動車・プラグインハイブリッド自動車のための充電設備設置にあたってのガイドブック」を作成いたしました。

4. 電気自動車や充電施設の普及促進に向け、引き続き必要な取組を進めてまいります。

※電気自動車・プラグインハイブリッド自動車のための充電設備設置にあたってのガイドブックは、以下のアドレスより入手して下さい。

- http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000051.html

(お問い合わせ先)

国土交通省都市・地域整備局街路交通施設課

TEL：(03) 5253-8111(内線 32-812, 32-843)

国土交通省自動車交通局技術安全部環境課

TEL：(03) 5253-8111(内線 42-502, 42-525)

<http://www.mlit.go.jp/common/000130718.pdf>



書店でも購入できます

書泉グランデにて下記の書籍を取扱っております。

- ・自動車技術(2009年8月号～最新号)
- ・日英中自動車用語辞典(2007年12月発刊)
- ・自動車工学—基礎—(2009年3月追補版)
- ・自動車技術ハンドブック第1分冊基礎・理論編
- ・自動車技術ハンドブック第2分冊環境・安全編
- ・自動車技術ハンドブック第3分冊設計(デザイン・ボディ)編
- ・自動車技術ハンドブック第4分冊設計(パワートレイン)編
- ・自動車技術ハンドブック第5分冊設計(シャシ)編
- ・自動車技術ハンドブック第6分冊試験・評価(パワートレイン)編
- ・自動車技術ハンドブック第7分冊試験・評価(車両)編
- ・自動車技術ハンドブック第8分冊生産・品質編
- ・自動車技術ハンドブック第9分冊整備・リサイクル・LCA編

◆書泉グランデ 6F

東京都千代田区神田神保町 1-3-2

Tel. 03-3295-0011(代表)

最寄駅：都営新宿線 神保町 徒歩3分

■ 社団法人 自動車技術会 倫理規定

自動車技術が人類、社会、産業界に及ぼす影響は極めて大きく、かつグローバルで多岐にわたっています。我々自動車技術会会員は、このような状況をよく認識し、専門的知識、技術、経験を最大限に発揮し技術の発展に寄与することはもとより、設立の趣旨を踏まえ人類の安全・健康・福祉の向上、地球環境の保全のために、最善を尽くすことを誓い以下のように綱領を定めます。

1. (技術者としての責務) 専門的知識、技術、経験、良識に基づき、「豊かな環境」、「健全な社会」、「安心で健康な生活」の増進・向上を促進するために最善を尽くします。
2. (社会に対する貢献) 現在及び将来の人々の安全と福祉、健康に対する責任を自覚し、自然及び地球環境の保全に努め、人類の持続的発展を目指して全力を尽くします。
3. (自己研鑽・技術継承) 専門的知識、技術、経験、人格などを継続的な自己研鑽により常に高める努力をします。また後進に対し積極的に指導、援助、激励を行い技術継承に努めます。
4. (権利の尊重) 互いに人権、権利、プライバシーを尊重し、他者の業績である知的成果、知的財産権を侵しません。
5. (情報の発信) 常に中立的、客観的な立場から誠意を持って研究内容や成果を社会に正しく説明するように努めます。
6. (国際性・公平性) 国際的視野を持ち文化・民族の多様性に配慮し、全ての人々に公平・誠実に対応します。

■ 支部連絡先

- 北海道支部** 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8
北海道大学大学院 工学研究科エネルギー環境システム専攻
Tel. 011-706-6381 Fax. 011-706-7889
- 東北支部** 〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1
石巻専修大学 理工学部
Tel. 0225-22-7716 ex3123 Fax. 0225-22-7746
- 関東支部** 〒252-0805 藤沢市円行2-25-1
セミナーハウス湘南台・いすゞ自動車(株)内
Tel. 0466-52-5758 Fax. 0466-52-5740
- 中部支部** 〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
(株)デンソー内
Tel. 0566-25-5953 Fax. 0566-25-4897
- 関西支部** 〒531-6008 大阪市北区大淀中1-1-88-800
マツダ(株) 大阪支社内
Tel. 06-6451-3630 Fax. 06-6451-3631
- 九州支部** 〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学大学院工学研究院
機械工学部門
Tel. 092-802-3155 Fax. 092-802-3155

● 複写をされる方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(財)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の方でない限り著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

一般社団法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
Tel 03-3475-5618 Fax 03-3475-5619
E-mail info@jaacc.jp

● アメリカ合衆国における複写については、下記へ連絡して下さい。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, U.S.A. Phone 1-978-750-8400 Fax 1-978-646-8600

■ 会誌編集委員会

- 委員長** 伊藤利彦(日産自動車)
副委員長 小口 誠(日本自動車研究所)
幹事 天谷賢児(群馬大学)
高橋裕樹(本田技術研究所)
委員 神谷 保(トヨタ自動車)
栗谷川幸代(日本大学)
島岡信次(マツダ)
竹内雄一(富士重工業)
玉巻宏章(スズキ)
田中浩文(ダイハツ工業)
西山一郎(日野自動車)
橋川 淳(デンソー)
藤岡哲雄(三菱自動車工業)
古谷博秀(産業技術総合研究所)
武藤一夫(静岡理科大学)
矢澤滋夫(三菱ふそうトラック・バス)
山岡士朗(日立製作所)
吉川暢宏(東京大学)
米澤英樹(交通安全環境研究所)
脇村智文(いすゞ自動車)
渡邊泰州(UDトラックス)

■ 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

1月号は新技術創出を支える基盤技術に焦点を当て、「自動車設計を支えるシミュレーション技術」という特集を組みました。自動車では多くの新技術が開発されますが、その裏には目に見えない多くの技術があり、特にコンピュータによるシミュレーション技術は新技術創出に欠かせないものとなっています。今回は技術分野毎にまとめましたので、各分野ではどんなシミュレーション技術が主に使われているかお分かりいただけると思います。執筆者選定にあたり、各部門委員会にご協力いただきましたこと誌面を借りてお礼申し上げます。

また座談会では、昨年の「EVの普及に向けて」というテーマに対し、今回は、まだ当面主力であるガソリンエンジンを取り上げ、「これからの自動車エンジンの進展」というテーマで官庁、カーメーカー、研究機関、大学の方々にお集まりいただき議論を行いました。今後電動車両が普及してくる中で、ガソリンエンジンも更なる改良を行い、燃費を向上させていく取り組みが必要であることを熱く語っていただきました。

今後も会員の皆様が満足していただける会誌作りを目指し編集委員会一同頑張っていきますので、何かお気づきの点などありましたら、是非編集委員会までご一報ください。よろしく願いいたします。

(伊藤 利彦)

自動車技術 Vol. 65, No. 1, 2011.

2010年12月25日 印刷
2011年1月1日 発行

編集発行人 新井 雅隆

発行所 社団法人 自動車技術会
〒102-0076 東京都千代田区五番町10番2号
電話 03-3262-8211

印刷所 株式会社 精興社

定価 2,625円 (本体 2,500円) (〒 108円)

©社団法人 自動車技術会 2011

本誌に掲載されたすべての内容は、社団法人自動車技術会の許可なく転載・複写することはできません。